

インターバンクの声（2016年7月4日）

週末のロンドン、ニューヨーク市場は、英国の欧州連合（EU）からの離脱決定による混乱から落ち着きを取り戻していたことに加え、週明け4日が米国の独立記念日で休場になるため、例年のようにニューヨーク時間の昼で市場も動きが限定的になった。ニューヨーク市場の朝方に発表された米供給管理協会（ISM）の6月の製造業景況指数が市場予想を大きく上回り、フィッシャー連邦準備制度理事会（FRB）副議長とメスター・クリーブランド連銀総裁がいずれも金融政策が引き締め方向にあることを確認する発言をしたが、相場に大きな反応はなかった。むしろ市場は、フィッシャー副議長とメスター連銀総裁が英国のEU離脱による米国経済への影響と見通しへの不透明感について言及したので、早期の追加利下げが大きく後退したと認識したのか、終盤には円買いが進んだ。ISM製造業景況指数では、受注残の拡大や注目された雇用項目も強含んだがほとんど無視された。今週末の雇用統計が弱ければ改めて強い円買いが始まりそうな雲行きだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。